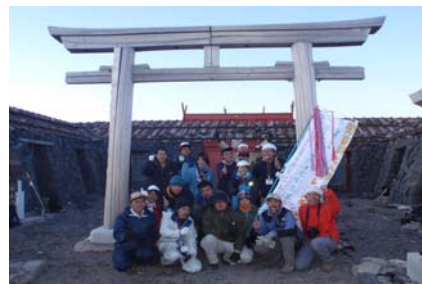


企画事業「青少年を対象にした先導的・モデルプログラム」
文部科学省委託事業

「30日間セルフチャレンジキャンプ！」

平成21年9月1日（火）～9月30日（水）
（29泊30日）



I 事業の背景

「青少年育成施策大綱」の青少年期における重点課題として、自立・責任・連帯・寛容などの人間性を涵養し、他者と共存していく上で必要な規範意識を身につけることが求められていること。また、国立青少年教育振興機構の計画としてボランティアの事業への参画の推進や指導力の向上を図るための機会や場を提供することが課題となっていることから、文部科学省の委託を受け、本事業を実施した。

II 事業の概要

1 趣 旨

不登校、ひきこもり、ニートなど特定の状況にある青年に対して、30日間ボランティアメイトと共同生活しながら、酪農、農業などの社会体験を行うことにより、人間関係力の向上、就業意識、職業観を培う。また、30日間の生活を通して規則正しい生活リズムや生活習慣の習得、体力の増強を促進し、0合目からの富士登山チャレンジにより「自信」と「生きる力」を身につける機会とする。

2 参加対象

ニート、ひきこもり、不登校の状況にある16歳以上の青年、概ね10名

3 参加状況

10名（男8名・女2名）

4 企画のポイント

(1) 事業の特色

本事業のプログラムデザインは柔らかなコミュニケーションを学ぶことから始め、0合目からの富士登山を目指すというストーリー性を重視した。

ボランティアメイトが、絶えず仲間の視点で参加者の課題を捉えて、解決のために働きかけ、関わることから共に支え合う関係に高めていくことで支援を行っていくことも、この事業の特色である。

(2) 事業の内容

① 青少年交流の家の「独自性」を活かし、参加者とボランティアメイトがお互いに協力し30日間の共同生活を行う。すべてミーティングを基本に食事、清掃の分担から休日のプログラムまで計画する。

② 体験活動及びプログラム（地域の教育資源の活用）

【社会福祉法人「野菊寮」】（知的障害者更生施設）5日間

・宿泊棟の壁補修、生活プログラムの補助、交流

【勝又牧場】（家族経営の牧場）3日間

・とうもろこしの刈り取り、牛舎作業、乳牛の世話

【NPO法人古民家ダイホームたまほ村】

（指定通所介護施設）3日間

・施設清掃、送迎補助、料理、交流など

【NPO法人御殿場市乗馬普及振興センター】5日間

・施設整備、馬房掃除、馬の手入れ、体験乗馬



【共同作業で支え合う人間関係を築く】



【コミュニケーションを大切に】

③保護者のつどい

保護者に対して参加者の変容と今後の保護者の対応について理解を深めるために有識者の講義と懇談を行う。

④自分自身へのチャレンジ！修学登山

0合目からの富士登山（村山古道）4日間

⑤発表会

保護者、受入機関などの関係者を招き、参加者、ボランティアメイトが共同企画して「事業報告会」を行う。

Ⅲ 成果と課題

1 成 果

この事業の成果は何よりも参加者の変容である。通信高校への通学を、本キャンプの参加をきっかけに再スタートしたP君。Kさんも高校の寮に戻る決心をした。8年間にわたったひきこもり生活を脱しようとキャンプに参加したM君はキャンプに参加したこと自体が大きな変化であった。参加者は仲間との30日間にわたる共同生活、地域でのボランティア活動、そして、0合目の富士登山というプログラムのなかで変容していく。特にプログラムの過程のなかで支え合う人間関係が構築できたときに顕著な変容がおきている。このことに今後も注目し、プログラム展開を工夫したいと考えている。

2 今後の課題

参加者の課題解決をめざすためには、本事業と日常をつなぐ個別支援との連携が必須である。当所が参加者を日常的に個別支援することは困難である。そのために事業実施前、中、後において地域に存在する自立支援機関との連携を密にする必要がある。とくに事業運営中の視察、訪問や機会に応じての団体紹介や事例紹介を行うことで参加者の日常へのアプローチが行き届くように配慮していくことが重要である。また、参加者の変容の様子等を日常の支援機関にしっかりと報告することが参加者の課題解決を促進させるために肝要である。

このことによって個別支援を充実させることができれば総合的かつ具体的な自立支援が可能になる。

このように、自立支援事業は地域との連携なしには存在できない。今後とも地域のさまざまな機関と連携しながら、特色ある事業を展開することが必要である。



【仲間がいるから頑張れる】

担当：企画指導専門職 北見 靖直